

佐賀大学研究室訪問！！

留学生センター 古賀 弘毅 准教授

佐賀西部方言の科学的な分析研究を推進！！

【研究テーマ】

- 「時制の形態・統語・意味論」
- 「格形式の統語・意味論」
- 「繫辞など複合述語の形態・統語・意味論」

【研究概要】

◆ 理論言語学の研究について

古賀准教授の研究室では、日本語、佐賀西部方言などの佐賀の方言、および佐賀周辺の方言を科学的に解析しています。理論や分析は、これらの方言と日本語を初期射程としますが、理論・分析を深め、日本語全般、さらには言語全般に一般化できる科学的な文法を、日々探求しています。現在の研究の中心テーマは、標準語および九州西部方言の時制「非過去形（つまり、現在・未来形）」と動詞の語幹の文法で、これは、動詞の様々な「活用形」の音韻・形態・統語・意味の現象を説明するものです。現在、外国人が日本語を学ぶとき最初に学習する260程度の動詞の佐賀西部方言の非過去形のデータを録音・収集しています。標準語「食べる；食べた」の佐賀西部方言は「食ぶっ；食べた」、標準語「掛かる；掛かった」の佐賀西部方言は「掛かー；掛かった」のように、方言と標準語でいくつかの動詞形態の非過去形が異なります。

ここで、古賀准教授が探求している「科学的な文法」というのは、音列を解析できる文法であり、さらに、言語に普遍的な公理化された文法という意味です。理工学部の教員と連携しながら、音列を解析し、それに意味を与えるソフト（詳しくは、構文解析器上に実装する文法プログラム）の開発も進めています。このソフトが完成すれば、標準語と方言の精密な翻訳が可能となります。さらに応用として、公理化された普遍的な言語全般の文法を発見・特定できれば、日本語と外国語の翻訳をより精密に行える可能性を秘めています。

言語学というと、日本では文系の研究分野ですが、実際は科学の研究分野であると、古賀准教授は述べています。また、人間だったらどんな人でも持っている言語習得力の秘密は、公理化された文法にあり、そしてこの公理化された文法を記憶し、自在に使えるのが人間であり、人間しかないことから、理論言語学は人間の脳の科学の一部でもあると考えます。

◆ 留学生への日本語教育について

古賀准教授によると、留学生には、日本語を話したり、書いたり、聴いたり、読んだりする時に、間違えやすい文法項目があり、日本語に慣れてきた留学生でも、つまずきやすい文法の壁がいくつかあるそうです。そこで、古賀准教授は留学生に日本語を教える際、抽象的になりますが、日本語の文法を体系的



古賀 弘毅 准教授

に、科学的に教えることで、留学生がその文法に従って自在に文を作れるよう、文法を分かりやすく教える工夫を行っています。これは他の言語の習得にも応用でき、日本語以外のその他の言語を学ぶ際のヒントとなると考えられます。

さらに、留学生向けの授業の一つとして、日本語の方言や、欧米の言語でない日本語以外の外国語を、その母語話者からデータを収集して文法を発見する、「野外手法（Field Methods）」の授業を行っています。この中で学生は、与えられた課題（例：形容詞＋繫辞）が、その言語でどのように文法的に表されるかを各自発表し、他の学生と知識を共有しています。

◆ 佐賀西部方言との関係、および地域貢献について

芦刈町（佐賀県小城市）出身の古賀准教授は、昔は、「よそにいったら、佐賀弁を恥ずかしい」と思うこともあったそうですが、海外に出て、外から日本、さらには自分を見つめ直し、この世界で何が自分にできるか、何が自分にしかできないかを真剣に自問した時、佐賀の方言の科学的研究であれば、自分にしかできないことではないかと強く感じるようになりました。今まで「科学」できるとさえも考えられず、誰も見向きもしなかった佐賀弁の科学的な分析を行い、研究を掘り下げていくことで、今では自分自身にとって、佐賀弁が母語であることは大きな財産となっているそうです。

古賀准教授は、研究分野である理論言語学の立場から、認知に関する言語障害の補助などで、また地域の年配の方々に対し、「母語（佐賀弁）」という財産を活かせるような活動（例：「佐賀方言教師養成研修」）などでも、地域に貢献していきたいと考えています。

実用化例、応用事例

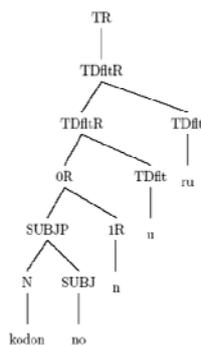


図2 音韻列「kodon no n u ru」の分析

/n/の意味 (5a)、/kodon no/の意味 (5b)、/u/と/ru/の無貢献の意味から、統語分析に沿った関数適用により、語・形態自体の持つ意味を基にした時制節全体の意味は (5c) である。

- (5) a. $\lambda e \lambda t [\text{sleep}'(e)(t)]$
- b. $\lambda X \lambda e \lambda t [\exists x [\text{child}'(x) \ \& \ X(e)(t) \ \& \ \text{SUBJ}(e, x)]]$
- c. $\lambda e \lambda t [\exists x [\text{child}'(x) \ \& \ \text{sleep}'(e)(t) \ \& \ \text{SUBJ}(e, x)]]$
- d. $\lambda e \exists t [\exists x [\text{child}'(x) \ \& \ \text{sleep}'(e)(t) \ \& \ \text{SUBJ}(e, x)] \ \& \ t \in T_{\text{Present}}]$
- e. $\exists e \exists t [\exists x [\text{child}'(x) \ \& \ \text{sleep}'(e)(t) \ \& \ \text{SUBJ}(e, x)] \ \& \ t \in T_{\text{Present}}]$

この意味 (5c) に語用論の (3) が適用し、これは (5d) と解釈される。この意味は (5e)（子供が寝るという出来事が存在する）とさらに解釈される。